

# 一寸光陰不可軽

## 人国記

「ハンドルをはずすに曲がるには？」「自動車が穴に落ちたら……」。私が最初に所属した第4シャシー設計係には、クルマに関する問題解決策や新しい技術の方向性などについて、固定観念を捨てて自由なひらめきを持ち寄る場がありました。「アイデア発想会」のような集まりでした。

今でもよく覚えているのは「クルマを止める」というテーマの時のこと。主任が「ブレーキ」という概念を捨てて自動車を止めるにはどうすればよいか、発想しろ」と言っんです。

そこで私は、「ロープでタイヤを吊り上げる」「車輪に棒を差し込み、ロックさせる」「止まる時にチェーンを垂らし、タイヤがそれを踏むようにする」などと、20個くらいアイデアをひねり出しました。

どれも突飛で実現不可能な提案ばかりでしたが、主任は1つひとつの案に

おほ 孝雄 (62) ⑧  
たか 貴島

### 元マツダロードスター主査

ついで「それもいいね」「おまえは頭が柔らかいな」と声をかけてくれたんです。ほめられたことは、いつまでも覚えているものですね。

その時思ったのは、自分のひらめきの根幹に、子供のころ駆け回った徳島県鴨島町の自然がある、ということ。ロープを垂らしてターザンごっこをやったり、土手をむしるで滑ったりした体験は無駄じゃなかったのかな、と。

いづれにせよ、こんな気風がある会社だから、世界の多くのメーカーが挑みながら断念した「ロータリーエンジンの実用化」を成し遂げたのかもしれない。くしくも、私が入社した昭和42年は、世界初となるロータリーエンジン

# 発想の源は故郷の自然

ジン搭載の量産車「コスモスポーツ」を発売した年でもあります。ですから当然、開発プロジェクトには関わっていません。ただ、このクルマは未来的



貴島さんが入社した昭和42年に発売された「コスモスポーツ」(マツダ提供)

なデザインや圧倒的な加速性能がもてはやされましたが、その鮮烈なデビューから間もなく、「操縦安定性が悪い」という問題が私たちの部門に舞い込んできました。

新米の私はもちろん、その課題解決に関わる立場にはありませんでしたが、先輩たちがどのように取り組むのか、とても関心がありました。すると、先輩たちは解析の結果をもとに、ホイールベアス(前輪軸と後輪軸との間の長さ)を150

ミ伸ばしたんです。デビューしたてのクルマにこんな大がかりなモデルチェンジを施すのも驚きでしたが、「操縦安定性って大事なんだな」と痛感したのもこの時でした。その、クルマの操縦性能を決めるという重い責任が、私たち「シャシー」部門に課せられているのです。



九州・山口

産経新聞九州山口版は月きめ購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でもご自宅や会社へ配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088  
FAX 092(726)2572  
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004  
福岡市中央区渡辺通5-23-8  
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333  
FAX 083(923)3334  
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074  
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは

☎ 0120(34)3733  
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは  
TEL 092(741)2323

広告のご用は  
TEL 06(6633)9474